三三三六番

鳥が音の　かしまの海に　高山を　隔てになして
沖つ藻を　枕になし　蛾羽の　衣だに着ずに
いさなとり　海の浜辺に　うらもなく　臥したる
人は　母父に　愛子にかあらむ　若草の　妻かあ
りけむ　思ほしき　言伝てむやと　家問へば　家
をも告らず　名を問へど　名だにも告らず　泣く
子なす　言だに問はず　思へども　悲しきものは
世の中にそある　世の中にそある

反歌

三三三七番

母父も　妻も子どもも　高々に　来むと待ちけむ
人の悲しさ

三三三八番

あしひきの　山路は行かむ　風吹けば　波のささ
ふる　海路は行かじ